



東地中海地域ニュース

イスラエル：EUによる関係格上げの凍結

(2月13日付ハーレツ紙)

13日付ハーレツ紙は、EUがイスラエルとの関係の格上げを凍結したことについて報じている。概要以下の通り。

1. EUは、イスラエルに対して、新内閣発足後、入植地建設を凍結すること、及びパレスチナ自治政府との交渉を継続することを求めて圧力をかけてきている。EUは、ネタニヤフ・リクード党首を筆頭とする右派内閣が、パレスチナとの和平交渉を停止するのではないかと懸念しており、数カ月前に公表されたイスラエル・EU間の「関係の格上げ」のプロセスを凍結した。
2. EU理事会議長国のチェコは、6月に予定されていたイスラエル首相とEU首脳が参加する首脳会談を凍結することを決定した。欧州の外交官は、「我々は、イスラエル新政府が、どのようにパレスチナとの和平プロセスに関し対応するのかを見極めたい。仮に(イスラエル・パレスチナ間の)和平交渉が再開されるのであれば、(EUとの)関係の引き上げは引き続き行われる」と語った。
3. 11日、統治の「EU トロイカ(チェコ、スウェーデン、EU)」大使は、ラファエル・バラク・イスラエル外務省西欧担当次官補に対して、ミグロン無認可入植地拠点(エルサレム)北西約20キロで)の住民を、アダム入植地に新規に建設される住宅地区に移住をさせること、並びにマアレ・アドミウム入植ブロック近郊のE1地区における建設に関して、公式に(反対の)申し入れを行った。

<参考>

E1地区は、エルサレム東部に隣接し(グリーンライン以東)行政上は約10キロ以東に位置する入植地ブロックの一つマアレ・アドミムの一部に含まれている。米国政府が入植住宅建設を長年にわたり強く反対している争点の地区。